

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介

NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 事務局長 齊藤 隆

川に学ぶ体験活動協議会（略称RAC）は、「川の指導者」の育成や様々な活動を通じて川と人々との関係をより深いものにしていくことを目的として、平成12年9月に設立され、平成22年1月現在、116団体が加入しています。

今回は平成21年9月5日・6日に開催された「川に学ぶ体験活動全国大会」等を中心にご紹介します。

【第9回川に学ぶ体験活動全国大会inひろしま】

平成13年から続く「川に学ぶ体験活動全国大会」は、今年、広島県広島市をメイン会場に開催されました。

1日目の基調講演は登山家でありカヤックの普及にも尽力されているモンベル会長の辰野勇さんをお招きし、「野遊びのすすめ」と題して、ご自身が自然との対峙から得たことが、ビジネスの世界でも大きな礎となっていることをご紹介します。野遊びではリスクマネジメントや好奇心、生きる力の他、特に山登りでは「集中力」「持続力」「判断力」を、カヌーからは「決断力」を学んだとのこと。



基調講演の後、「川に学ぶ学校発表」が行われました。開催地域の海田東小学校からは、生き物や水質の調査、川の流れ体験の報告があり、川の流れが場所によって異なることを体験を通じて学んだことなどが紹介されました。高陽中学校からはホテルの生息とカワナナの状態などの調査報告があり、ある程度生活排水が混じっているほうがホテルの数が多く見られたことの報告がありました。国泰寺高校からはオオサンショウウオの研究発表があり、遺伝子の配列を音符に変換しての見事なメロディーを披露されました。

続いて、全国の活動事例について10団体から紹介がありました。テーマは「遊び」「生活」「環境」「防災」「賑わい」の5つから各団体の「川に学ぶ体験活動」が紹介されました。長年取り組んでいる団体が

多く、その活動を継続している方々から元気を頂きました。

1日目の締めくくりは交流会。今年の交流会は室内での懇親の後、平和記念公園の中を流れる元安川のほとりで川

と関係の深い神楽である「八岐大蛇」の演舞等が行われました。元安川のほとりで松明を



今回のような神楽が行われるのは地元でも初めての試み。幽玄な演舞と音色に、時を越えて、神話の世界へと思いを馳せた一時になりました。

2日目は、5つのテーマに分かれての分科会、全体会が開催され、「各地の川にクラブをつくろう」という提案や、川原の石を箸置きにするなど川にあるもので生活を豊にする工夫、さらには、活動を継続していくためには主催者が楽しむことが大切等々、忘れがちなことも含めて示唆に富んだ多くの提案を共有しました。

そして、本大会の最後は「未来へのメッセージ」と題し、地元小学校の金沢緑校長先生より、「川に学ぶ持続発展型教育」について、ご自身で推進してきた川での学習の成果についてお話がありました。例えば自分の視点からしか周りの世界が見えなかった子どもが、川の生き物を観察するにつれて、様々な視点から世界を見られるようになった等の紹介があり、川を活用した取り組みを通じて授業の成果が十二分に発揮されていること等を力説頂きました。

平成22年度の「川に学ぶ体験活動全国大会」は鹿児島県薩摩川内市を主な会場にして10月8日～10日に開催の予定です。

《NPO法人川に学ぶ体験活動協議会》

東京都中央区新川 2-10-6 カヤヌマビル703号

TEL.03-5542-7577 FAX.03-5542-7578

<http://www.rac.gr.jp>